

第七十九回  
帝國議會  
貴族院

國民體力法中改正法律案特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

- 國民體力法中改正法律案(政)
- 國民醫療法案(政)
- 健康保險法中改正法律案(政)
- 國民健康保險法中改正法律案(政)
- 戰時災害保護法案(政)

委員氏名

- |      |         |
|------|---------|
| 委員長  | 公爵島津忠承君 |
| 副委員長 | 子爵京極高修君 |
|      | 侯爵筑波藤麿君 |
|      | 侯爵久我通顯君 |
|      | 伯爵副島道正君 |
|      | 子爵實吉純郎君 |
|      | 子爵高木正得君 |
|      | 松井茂君    |
|      | 河原田稼吉君  |
|      | 安井英二君   |
|      | 下村宏君    |
|      | 男爵井上清純君 |
|      | 男爵高木喜寬君 |
|      | 男爵山根健男君 |
|      | 中川望君    |
|      | 小坂梅吉君   |
|      | 田部長右衛門君 |
|      | 野田六左衛門君 |

昭和十七年二月五日(木曜日)午前十時十分開會

○委員長(公爵島津忠承君) ソレデハ是ヨリ開會致シマス、先ヅ當局ヨリ御説明ヲ願ヒタイト存ジマス

國務大臣(小泉親彦君) 先ヅ最初ニ國民體力法中改正法律案ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、惟フニ優秀健全ナル國民ノ體力ハ、國家活動力ノ源泉デアリマシテ、今日ニ於キマシテ我ガ國民體力ノ増強ト向上トヲ徹底致シマスルコトハ、實ニ大東亞戰爭遂行上緊要デアリマスルノミナラズ、我ガ國民悠久ノ發展ノ根基ヲ培フ所以デゴザイマス、國民體力法ハ昭和十五年ニ制定セラレマシテ、既ニ昭和十五年度ニ於キマシテハ十七歳以上十九歳迄ノ男子二百萬人ニ對シ、昭和十六年度ニ於キマシテハ、十五歳以上十九歳迄ノ男子三百七十萬人ニ對シマシテ、體力検査ヲ行ヒ、其ノ結果ニ基キ必要ナル體力向上ニ關スル指導其ノ他ノ措置ヲ講ズル等、國民體力ノ國家管理ヲ實施致シタノデアリマス、然ルニ現下ノ情勢ハ、銃後ノ豫備的兵力並ニ勞力ノ根本的確保ヲ圖ルノ必要愈々切ナルモノガアルノデアリマシテ、之ガ對策ト致シマシテハ、體力管理ヲ一層徹底セシムルト共ニ、二十年以上ノ成年男子ニ對シマシテモ體力管理ヲ實施スルノ必要ガアリマスルノミナラズ、又益々蔓延セムトスル結核ノ豫防對策ヲ徹底致シマスルト共ニ、一般虛弱者ニ對シマシテハ、積極的ニ體力ノ増強練成ヲ行フ必要ガアルノデアリマス、以下改正法律案ニ付テ、其ノ改正ノ要旨ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一ニハ、體力検査ノ方法及内容ニ付キ十分改善ヲ加ヘルコトト致シタノデアリマス、例ヘバ其ノ検査ガ劃一的ニ墮シテ實效ノ舉

ラナイト云フヤウナコトノナイヤウニ致シマスル爲ニ、例ヘバ工場、鑛山ノ集團生活者等ニ對シマシテハ、年一回ノ検査ニ限リマセズニ、更ニ検査ヲ實施スルコトト致シマスル等、重點的、效果的ニ致シタイト考ヘテ居リマス、又結核ニ關スル統計ニ依リマスルト、男子ニスリマシテハ十五歳ヨリ二十五歳迄ノ年齢層ノ者ニ最モ結核罹患率ガ高イノデアリマシテ、現行法ノ如ク被管理者ノ範圍ヲ未成年者ニ限ツテ居リマス、結核對策ノ徹底ヲ期シ得ナイ憾ミガアリマスルノデ、被管理者ノ範圍ヲ男子二十五歳迄擴張スルコトニ致シタノデアリマス、尙被管理者以外ノ者ニ對シマシテモ、乳幼児對策、結核對策等特ニ國民體力ノ向上ヲ圖ル爲ニ必要アリト認メラレマスル場合ニハ、被管理者ニ準ジマシテ體力検査ヲ行フコトト致シタノデアリマス、検査ノ方法、範圍等ニ關シマシテハ、何レ勅令等ニ規定致スノデアリマスルガ、其ノ目的、對象等ニ應ジマシテ遺憾ナキヤウ十分ノ注意ヲ加ヘル考デアリマス、第二ニハ、體力手帳ノ内容ヲ充實シテ、眞ニ國民ノ健康履歷簿トシメントスルモノデアリマス、體力手帳ハ從來初メテ體力検査ヲ受ケマシタ時ニ、其ノ結果ヲ記載シテ交付シ、爾後検査毎ニ其ノ結果ヲ記載シ、又ハ第十一條ノ指示ヤ第十二條ノ處置命令、療養ノ指導等ヲ記載シテ、本人ニ對スル指導ニ資シテ參ツタノデゴザイマスルガ、今回ノ改正ニ依リマシテ、體力手帳ニハ他ノ法令等ニ依ル身體検査ヤ健康診

斷等ヲ受ケマシタ場合ニモ、其ノ結果ヲ記載スルコトト致シタノデアリマス、尙又主要疾病ニ付キマシテ醫師ノ診斷ヲ受ケマシタ場合ニモ同様ニ致シタノデアリマス、第三ニハ、國民體力管理醫ハ其ノ職務ノ遂行ニ當リマシテハ、國民體力ノ向上ニ關スル國策遂行ニ努ムベキモノナルコトヲ明定シ、以テ國民保健指導ノ職責遂行ニ遺憾ナカラシメムコトヲ期シタノデアリマス、第四ニハ被管理者ニ對スル體力管理ノ内容ノ徹底ヲ圖ツタコトデアリマス、即チ今迄ハ本法ノ體力検査ノ結果ニ基イテノミ、體力向上ニ關シ指示ヲ加ヘ又ハ疾病ノ療養ニ關スル處置ヲ命令シテ居ツタノデアリマスルガ、今後ハ斯カル指導ヲ他ノ法令等ニ依リマスル、身體検査ヤ健康診斷ノ場合並ニ結核豫防法其ノ他ノ法令ニ依リマシテ、醫師ヨリノ結核患者等診斷ノ届出ガアリマシタ場合ニモ、必要ニ應ジ、右ニ述ベマシタ如キ指示ヤ處置ヲ執リ得ルコトトシ、一層體力管理ノ實ヲ舉ゲムコトヲ期シタ次第デアリマス、第五ニハ、主務大臣又ハ地方長官ニ於テ體力検査ノ結果ニ鑑ミマシテ、特ニ體力向上ヲ爲ニ施設又ハ處置ヲナサシムル必要アリト認メマスル時ハ、公共團體、法人又ハ團體ニ對シマシテ保健指導、保養、虛弱者ノ體力増強ニ關スル施設、榮養又ハ環壓ノ改善等、體力ノ向上ニ關スル事項ノ指示ヲナスコトヲ得ルコトト致シタノデアリマス、之ニ依リマシテ體力管理ハ單ニ被管理者ニ對シテ個別的ニ行フニ止マリマセズ、綜合的ニモ行ヒ得

一

ルコトヲ明カニ致シタノデアリマス、第六ニハ、國民體力法ニ規定スル地方長官ノ職權ハ、其ノ一部ヲ保健所ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得ルコトニ致シタノデアリマス、保健所ハ元來地方ニ於キマシテハ、國民保健上必要ナル指導ヲ行フ爲ニ設ケラレタモノデアリマシテ、國民保健指導ノ中樞機關デアリマスルカラ、其ノ長ヲシテ地方長官ノ職權ノ一部ヲ行ハシメルコトハ、地方ノ實情ニモ即シ且效果的デアルト考ヘル次第デゴザイマス、次ニ國民醫務法案ニ付テ御說明申上ゲマス、先ヅ最初ニ申上ゲマスコトハ、現行醫師法及齒科醫師法ハ何レモ之ヲ本法案中ニ統合致シマシテ、其ノ内容ニ付キ若干ノ改正ヲ行ヒマスル共ニ、新ニ必要ナル事項ヲモ規定シ、且日本醫務團ヲ設立セムトスル點ガ、國民醫務法案ノ骨子トナツテ居ルコトデアリマス、以下本法案ノ内容ニ付キ概略ノ御說明申上ゲマス、醫師及齒科醫師ノ職責ノ重大デアリマスルニ鑑ミマシテ、其ノ本分ヲ法律中ニ明カナラシメマスコトハ、其ノ責任ノ重キヲ一層自覺セシムルコトトナリ、醫道ノ振作ニ資スル所少カラザルモノアリト考ヘラレマスルノデ、先ヅ其ノ規定ヲ設クルコトト致シマシタ、次ニ醫師及齒科醫師ハ自由ニ病院診療所及産院ノ開設ヲナシ得ル現行法ヲ改メマシテ、病院等ノ開設ニ當リマシテハ何人ト雖モ許可ヲ受ケシムルノ制度ヲ採用スルコトト致シマシタコトハ、初メテ醫療關係者トナリタル者ニ付キ、二年ヲ限度トシテ勤務ノ指定ヲナシ得ルノ途ヲ開クコトト共ニ、醫療施設ノ適正ナル配置ヲ行フ爲極メテ肝要ト認メマシテ、ソレノ其ノ規定ヲ置クコトト致シマシタ

次ニ醫師其ノ他ノ醫療關係者ニ對シ、醫療及保健指導ヲ行ヒマスル上ニ必要ナル事項ノ修習ヲナサシメ得ルノ途ヲ開キマスルコトハ、是等ノ者ニ對シマシテ、其ノ職責ノ實施ニ關シ必要ナル指示ヲナシ得ルノ途ヲ開クコトト相違ンデ、之ニ依リマシテ醫療ノ向上ト適正ト期セムトスルノ趣旨ニ出デタルモノデアリマス、又現行ノ專門科名制度ヲ改メマシテ、之ヲ診療科名ト專門科名トニ分チマシテ、診療科名ニ付キマシテハ自由標榜制度ト致シマスルガ、專門科名ノ標榜ニ付キマシテハ許可ヲ受ケシムルコトト致シマスコトハ、學位ノ廣告ヲ禁止セムトスル規定トモ照應致シマシテ、將來醫術ノ研究ト向上ト期スル爲ニ必要ナルコトト考ヘタ次第デアリマス、醫療報酬及醫療關係者ノ給與ニ付キ其ノ甚ダシク不當ナル場合、之ガ抑制ノ爲ニ必要ナル方策ヲ講ジ得ベキ規定ヲ設ケマシテ、又醫事ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シマシテハ、免許ヲ行ハザルコトアルベキ旨ノ規定及醫師ノ品位ヲ損ズルノ行爲アリタル者ニ對シマシテハ、醫業停止其ノ他ノ行政處分ヲ行フコトアルベキ旨ノ規定ヲ設ケマシタノハ、何レモ之ニ依リマシテ一段ト醫道ノ刷新昂揚ヲ圖ラムトスルノ趣旨ニ出デタルモノニ外ナラナイノデアリマス、尙醫師會及齒科醫師會ニ對シマシテ、將來一層其ノ公正ナル活動ヲ期待致シマスル爲ニハ、此ノ際之ヲ改組スルノ必要アルヲ認メマシテ、其ノ使命、會員ノ範圍其ノ他ニ付キマシテ必要ナル改正ヲ行フコトト致シマシタ、最後ニ日本醫務團ニ付キ御說明申上ゲマス、國民ニ醫療ヲ普及セシメ、且ツ其ノ内容ノ向上ヲ圖リマスコトハ、結核對策ノ急速ナル徹底ヲ

期スルコトト共ニ、大東亞戰爭ノ完遂上喫緊ノ要務ト考ヘマシテ、政府ハ之ガ對策ト致シマシテ新タニ日本醫務團ヲ設立スルコトト致シタノデアリマス、日本醫務團ハ政府ノ出資ヲ根幹トスル特別法人デアリマシテ、其ノ業務ト致シマシテハ病院、診療所及産院ノ經營、醫療關係者ノ指導及練成並ニ是等ノ業務ニ附帶スル事業ヲ主タルモノト致シ、尙必要アル場合ニハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ、ソレ等以外ノ業務ヲモ行ヒ得ルコトト致シテ居リマス、本團ニ對シテハ、政府ニ於キマシテ五箇年間ニ一億圓ノ資本金ヲ出資スルコトト致シ、日本醫務團ニ於キマシテモ政府出資金額ノ五倍ヲ限リ醫療債券ヲ發行シ得ルコトト致シマシタガ、政府ト致シマシテハ、醫療債券ノ元利支拂ヲ保證スル外、本團ノ事業ニ對シマシテ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトト致シテ居リマス、其ノ他日本醫務團ノ役員、課稅上其ノ他ノ特典、特權、監督等ノ規定ニ付キマシテハ、大體ニ於キマシテ政府出資ニ依ル法人ノ前例ト著シキ差異ヲ設ケテ居リマセヌノデ、其ノ說明ヲ省略致シタイト存ジマス、次ニ健康保險法中改正法律案ニ付キマシテ其ノ改正ノ要旨ヲ御說明申上ゲマスルト次ノ數點デゴザイマス、第一ハ健康保險法ト職員健康保險法ノ統合ヲ致シマシテ、且ツ健康保險法中關係規定ヲ整備改正致サムトスルモノデゴザイマス、之ニ依リマシテ一面事務ノ簡捷、關係者ノ利便ヲ圖リマスルト共ニ、他面保險經濟、給付能力ノ強化ヲ企圖スルコトト致シテ居ルノデアリマス、第一ニハ、被保險者ノ範圍ノ擴張ヲ行ハムトスルモノデアリマス、先ヅ年收千二百圓以上ノ職員ハ現在被保險者ト

ナツテ居リマセヌガ、之ヲ年收千八百圓迄ノ職員ヲモ被保險者タルコトト致シ、尙年收千八百圓以上ノ職員ニ付キマシテモ、被保險者タリ得ルノ途ヲ開クコトト致シテ居リマス、又現在ハ事務所、商店等ニ付キマシテハ、常時十人以上ヲ使用スル場合法ノ適用ガアルノデゴザイマスルガ、常時五人以上使用スルモノニ適用スルコトト致サムトスルノデアリマス、第三ハ保險給付ノ整備擴充デアリマス、先ヅ分擔費ノ支給額ヲ増加致シマスルト共ニ、結核性疾病ニ對スル延長給付並ニ被保險者ノ家族ニ對スル給付ハ、從來任意給付トナツテ居リマシタノヲ、法定給付ニナシマスルト共ニ、更ニ其ノ内容ヲ充實スルコトト致シテ居リマス、尙ホ從來職員健康保險法ニ於キマシテハ、被保險者ノ療養ニ要スル費用ニ付キマシテ一部負擔制度ヲ採用致シテ居リマシタガ、今回ノ改正ニ當リマシテ、原則トシテ此ノ制度ヲ採用致スコトトシタノデアリマス、之ニ依リマシテ受診手續ノ單一簡捷化、受診上ノ弊害ヲ防止シ、醫療内容ノ向上充實ヲ圖リタイト存ズル次第デゴザイマス、次ニ保健醫ノ制度ヲ強化致シマシテ、行政官廳ニ於テ一般醫師、齒科醫師、藥劑師ニ付キ保險醫、保險藥劑師タルコトヲ指定スルコトト致シ、且ツ正當ノ事由ナクシテハ保險醫タルコトヲ拒ミ得ザルコトト致シ、又是等ノ保險醫ガ保險者ニ請求スル診療報酬ノ額ハ、關係者ノ意見ヲ聞キ主務大臣之ヲ定ムルコトト致シマシタ、之ニ依リマシテ醫療組織ノ整備充實及醫療費ノ適正ト其ノ統一ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、第四ハ健康保險組合聯合會デアリマスガ、新タニ本制度ヲ法律上認メ、個々ノ健康保險組合

ニ依リ達成シ難キ各種ノ保健施設等ヲ聯合會ノ力ニ依リ達成セムトスルモノデアリマス、次ニ國民健康保險法中改正法律案ニ付テ、其ノ改正要點ヲ御説明申上ゲマス、第一ハ、從來普通國民健康保險組合ノ設立ハ任意デアリマシタモノヲ、必要ト認メマスル場合ニハ其ノ設立ヲ強制シ得ルコトト致シタコトデアリマス、第二ハ、組合ノ充實強化ヲ圖リマスル爲、組合ニ對スル加入強制ノ規定ヲ強化致シタコトデアリマス、第三ハ保險醫、保險藥劑師ニ關スル規定ヲ新クニ設ケマシテ、制度ノ整備強化其ノ他ニ關シマシテ、健康保險法ト同様ノ改正ヲ致シタコトデアリマス、第四ハ、組合ノ事業ヲ代行スベキ法人ハ、從來營利ヲ目的トセザル社團法人ニシテ、其ノ社員ノ爲ニ醫療ニ關スル施設ヲナスモノニ限ッテ居ッテデアリマスルガ、之ヲ改正致シマシテ、營利ヲ目的トセザル社團法人ナラバ必ズシモ醫療ニ關スル施設ヲナスモノニ限定セザルコトニ致シタコトデアリマス、以上今回ノ改正ノ要點ヲ申上ゲタコトデアリマス、此ノ兩改正ニ依リマシテ、勤勞者及其ノ家族ヲ對象ト致シマシテハ、健康保險制度ヲ普及シ、農山漁村民其ノ他一般國民ヲ對象ト致シマシテハ、國民健康保險制度ヲ普及強化致シマシテ、以テ國民ノ大部分ヲ保險制度ノ恩澤ニ均霑セシメマスルト共ニ、社會保險ニ於ケル醫療其ノ他ノ給付内容ノ向上充實ヲ圖リタイト存ズルノデアリマス、最後ニ戰時災害保護法案ニ付テ御説明申上ゲマス、今後戦局ノ推移ニ伴ヒマシテ、敵國航空機ノ來襲、其ノ他ノ方法ニ依リ攻撃ヲ受ケマシタル場合、之ニ依ッテ危害ヲ受ケマシタル者ヲ保護シ、戰時災害ニ對

シ何等ノ不安ヲモナカラシメ、民心ノ安定ヲ圖ルコトハ極メテ肝要ト存ズルノデゴザイマス、然ルニ我が國ノ罹災救助ニ關スル現行制度ヲ以テシテハ、戰時災害ニ對スル保護ノ完璧ヲ期シマスルコトハ甚ダ困難デアリマスルノデ、茲ニ戰時災害ノ保護ニ關スル法律ヲ制定スルコトトシ、本案ヲ提出スルニ至ッテ次第デアリマス、本法案ハ戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケマシタル者並其ノ家族及遺族ニシテ帝國臣民タル者ヲ、應急的又ハ一定期間保護スルト共ニ戰時災害ニ因リ身體財產ニ危害ヲ受ケマシタル場合ニ給與金ヲ支給スルコトヲ目的トスルモノデアリマシテ、今其ノ保護ノ内容ヲ簡單ニ御説明申上ゲマスルコトトシ、通リデゴザイマス、第一ニハ、罹災者ノ應急救助デアリマスガ、是ハ災害ニ罹リ現ニ應急救助ヲ必要トスル者ニ對シテナスモノデアリマシテ、其ノ種類ハ收容施設ノ供與、焚出其ノ他ニ依リ食品ノ給與、被服、寢具其ノ他生活必需品ノ給與及貸與、醫療及助産、學用品ノ給與、埋葬其ノ他地方長官ニ於テ必要ト認ムルモノデアリマス、此ノ救助ヲ行フ爲ニハ地方長官ハ一定ノ者ヲシテ救助ノ實施ニ從事セシメ要救助者ヲシテ救助ノ實施ニ協力セシメ又ハ必要ナル施設ノ管理、土地又ハ家屋ノ使用、物資ノ使用若クハ收用ヲナシ、又ハ物資ヲ保管セシムルコトヲ得ルモノト致シ、且ツ是等ニ關シ實費ノ辨償又ハ損失補償ヲナシ、尙救助ノ實施ニ從事又ハ協力スル者ガ之ガ爲メ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ死亡シマシタル場合ニ於テ扶助金ヲ給スル等ノ措置ヲ講ズルコトト致シテ居リマス、第二ニハ、生活困難者ニ對スル扶助デアリマスガ、是ハ災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ疾

病ニ罹リタル者、災害ニ因リ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル場合ニ於テ尙身體ニ著シキ障害ヲ存スル者、是等ノ者ノ配偶者、直系卑族又ハ直系尊族並ニ災害ニ因リ死亡シタル者ノ配偶者直系卑族又ハ直系尊族ニ對シテナスモノデアリマス、扶助ノ種類ハ、生活扶助、療養扶助、出產扶助及生業扶助ノ四種デアリマシテ、其ノ扶助ヲナス期間ハ、災害ヲ受ケマシタル時ヨリ一定ノ期間内トシ、又扶助ヲ受ケル者ガ死亡シタル場合ハ埋葬ヲ行ヒ、又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトトシタコトデアリマス、第三ニハ、災害ヲ受ケマシタル者ニ對スル給與金ノ支給デアリマスガ、是ハ戰時災害ニ因リ死亡者ノ遺族ニ對シ死亡給與金ヲ、又傷痍若クハ疾病ニ罹リ之ガ爲メ身體ニ著シキ障害ヲ存スル者ニ付キマシテハ障害給與金ヲ支給シ、更ニ災害ニ因リ住宅又ハ家財ヲ滅失、又ハ損失シタル者ニ對シマシテハ、其ノ更生ヲ便ナラシムル爲給與金ヲ支給スルモノデアリマス、尙業務ノ性質上、災害ニ因リ危險ヲ顧ミルコト能ハズシテ業務ニ從事スルコトヲ要スル者ガ、其ノ業務ニ從事中災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ、若クハ疾病ニ罹リ、又ハ死亡致シマシタル場合ハ、本人又ハ其ノ遺族ニ對シマシテ一般ノ場合ヨリ程度ヲ高メテ給スル考デアリマス、右ハ本法案ニ依リ保護ノ内容ヲ簡單ニ申上ゲタコトデアリマスルガ、是等ノ保護ハ何レモ戰時下ニ於ケル生活ノ不安ヲ除キ、民心ノ安定ヲ圖ル爲極メテ必要ナルモノト考ヘルノデアリマス、其ノ他本法ニ依リ保護ハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助又ハ扶助ニアラザルコト、本法ニ依リ給與ノ金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ、若クハ差押フルコトヲ

得ザルコト等ノ規定ヲ設ケタコトデアリマス、以上五件ノ法律案ニ付キ御説明申上ゲタコトデアリマスガ、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ切望致シマス、  
○委員長(公爵島津忠承君) 御質疑ハ次回ヨリ願フコトト致シタイト存ジマス、尙參考資料等、御要求ガアリマスナラバ此ノ際御申出ヲ願ヒタイト存ジマス  
○河原田稼吉君 序ニ參考資料ヲ御願ヒシテ置キマス、此ノ日本醫療團ハ、ドウセ之ガ出來レバ早速事業ヲ御始メニナルガラウト思ヒマスガ、取敢ズノ御計畫ハ、ドウ云フ風ノ豫算デ、ソレカラドレダケノモノヲ新設シ、ドウ云フモノヲ統合スルカ、其ノ大體ノ御見込デスネ、サウ云フモノガ出來テ居レバ頂戴シタラ宜イト思ヒマス  
○下村宏君 序ニ御願ヒシタイノハ、醫療債券ノ規定案ニ關聯シテ、外國デハ結核トカ其ノ他斯ウ云フ社會事業ノ時ノ資金ヲ得ル爲ニ、例ノ富籤ノ債券ヲ大概ノ國ハ許シテ居ルヤウニ思フ、イギリスノヤウナ最モサウ云フコトヲヤラヌ國デモ、赤十字トカ斯ウ云フ仕事ノ爲ニハ、其ノ資金ヲ寄附スル積リデ富籤見タイナ制度ヲヤッテ居リマス、私共古イコトヲ知ッテ居ルノデアリマスガ、近頃ドウ云フコトニナッテ居リマスカ、若シ各國ノサウ云フ實例ノ御調ガアッタラ頂戴シタイト思ヒマス  
○小坂梅吉君 私モ一ツ參考書類ノ提出ヲ求メマス、此ノ團自治團體ノ關係デスネ、團ノ産院ダトカ診療所ダトカ、結核ノ療養所ダトカ、色々ナモノガアリマスガ、東京市ガ御承知ノ通り永年努力シテ來タ種々種ナ療養所若クハ病院、産院等ノ經營施設ト、今度ノ團トドウ云フ關係ガアルカト云

フコトヲ、具體的ニ一ツ御示ヲ願ヒタイ

○松井茂君 此ノ防空ノ問題ノ時ニ、避難ノヤウナ場合ガアリマシタ時ニ住宅ガ非常ニ困ルノデアリマス、サウ云フ場合ニ善處スルヤウニ應急的ニ、例ヘバ組立ノ家屋ノ設備ヲスルトカ云ツタヤウナ、病人トカ老人トカト云フヤウナモノヲ臨機應變ニヤルヤウナ時ノ用意、サウ云フ御取調ヤ御計畫ガ出來テ居レバ御調ヲ願ッテ材料ヲ戴キタイト思ヒマス

○委員長(公爵島津忠承君) ソレデハ本日ハ是ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス

午前十時四十六分散會

出席者左ノ如シ

委員長 公爵島津 忠承君  
副委員長 子爵京極 高修君  
委員

侯爵筑波 藤鷹君  
子爵實吉 純郎君  
子爵高木 正得君  
松井 茂君  
河原田稼吉君  
安井 英二君  
下村 宏君  
男爵井上 清純君  
男爵高木 喜寛君  
男爵山根 健男君  
中川 望君  
小坂 梅吉君  
田部長右衛門君

國務大臣  
政府委員

厚生大臣 小泉 親彦君  
厚生次官 武井 群嗣君

厚生省人口局長 中村敬之進君  
厚生省衛生局長 加藤於菟丸君  
厚生省豫防局長 高野 六郎君  
厚生省生活局長 川村 秀文君  
厚生省労働局長 持永 義夫君  
厚生書記官 吉富 滋君  
同 高橋 敏雄君  
保險院長官 樋貝 詮三君  
保險院社會保險局長 木村 清司君  
保險院簡易保險局長 前田 穰君